

こんな活動やっています

里守隊 NPO 法人愛のまちエコ倶楽部

愛のまちエコ倶楽部は、「あいとうエコプラザ菜の花館」を拠点に地域の農業や環境の再生を目指して活動している団体です。農薬を使わない米づくり・野菜づくりの体験や、愛東特産の果物づくり体験、愛東から全国に広がる「菜の花エコプロジェクト」の実践など、地域の方々の協力をいただきながら活動の幅を広げています。

「里守隊」は、愛のまちエコ倶楽部の活動のひとつで、月に一度、愛東地域の里山の整備作業をしています。人の手が入らなくなった松林では密生した松が枯れ、倒木もたくさんあります。そこで里守隊では、枯松の伐採や腐葉土の採取などを行い、昔のような健康で明るい森の復活を目指しています。

里守隊が活動を始めてもうすぐ4年。最初は数人しか集まらず細々としていましたが、徐々にメンバーが増え、さらに昨年の5月からは国際ボランティア学生協会の学生さんたちも加わり、毎回30〜50人くらいにぎやかに作業しています。作業効率もぐんと上がり、これまで少しづつしか運び出せなかった倒木などもあつという間に片づくようになりました。

運び出した木は地域の施設や個人に薪として使ってもらっていますが、まだまだ使いきれないのが現状です。地域の中でエネルギーが循環するよう、利用先を見つけることが早急な課題です。

少しずつ整備の進む森では、森に親しみ自然と触れ合う機会を作ろうと、イベントも行っています。ピザやパンが焼ける石窯をつくり、森の奥の小川へと続く小道も整備しました。毎年8月には、夏休みイベント「あいとうの夏まるかじり」を開催し、クラフトや川遊びなど、親子でさまざまな自然体験してもらっています。

里守隊では、一緒に活動してくださる方を募集しています。森のおいしい空気を吸いながら、楽しく作業しましょう。活動日は毎月第3日曜日が基本です。詳しくは愛のまちエコ倶楽部事務局までお問い合わせください。



NPO 法人愛のまちエコ倶楽部事務局
0749-46-8100
(あいとうエコプラザ菜の花館内)
HP <http://www.ai-eco.com/>



綿向山

綿向山を愛する会

鈴鹿山系の山の中でも、近年人気急上昇の山が綿向山。日野町では、その標高1110mに因んで11月10日を綿向山の日と制定し、より多くの人に親しんでもらおうと、毎年「ふれあい綿向山Day」というイベントを開催しており、大勢の登山客で賑わっています。

当日は、頂上では登山証明書の発行と展望の説明会が、また三合目では、こもれびコンサートやバザーが行われています。これらの催しを支えているのが、綿向山を愛する会の方々で、この会は、表参道の3つの山小屋を建設したり、道標の設置や登山道の整備・清掃を行うボランティア団体です。このような活動をされている会のメンバーとの、綿向山での語りも楽しみのひとつではないでしょうか。

古くから、神の山として崇め親しまれてきた綿向山。華やかな曳山で知られる馬見岡綿向神社の春の祭礼の日野祭は、綿向山の頂上に、奥宮として祀られている大高（おおだけ）神社の神を日野の里に迎える4月20日の嶽（だけ）まつりに始まります。当日、宮司と総代役員等は、山麓の佐久奈度神社に参拝し、まだ木々の芽吹かない表参道を頂上に至ると、朗々と祝詞が奏上され、参

拜者には白蒸しが振る舞われます。馬見岡綿向神社の社伝によると、欽明天皇6年（545年）の4月に季節外れの大雪が降り、綿向の神が降り立ったということで祀られています。この社殿はカヤの木で造られていて、21年目ごとに遷宮として建て替えられています。

綿向山は、県内でも貴重なブナ林が7合目付近から上部に残っていて、多くの野鳥がやってくることで知られています。新緑のブナやミズナラ、コハウチワカエデ、オオイタメイゲツ、シロモジヤリヨウブの林に、夏鳥としてやってきたオオルリ、キビタキ、クロツグミ、コルリなどの美しい鳴き声が響き、留鳥のミンサザイやヒガラがそれに加わって素晴らしい合唱となります。そしてそれらを一層盛り立てるように、綿向山から竜王山へ至る岩尾根には、濃いピンクのホンシャクナゲが美しく咲き誇ります。この季節、バードウォッチングに出かけてみませんか。きっとあなたは綿向山の虜になることでしょう。



もりん・ちゅ東近江2009 開催! ～持続可能な社会を次世代へ～

東近江流域森林づくり委員会は、平成21年3月8日(日)、八日市駅前「アピア」においてフォーラム「もりん・ちゅ東近江2009」を開催しました。

第一部は哲学者の内山 節(たかし)先生による講演「怯えの時代」。個人同士のつながりが薄くバラバラになっている現代を生き抜くには、地域の人々、歴史や文化、そして自然と「連帯」すること、また、信頼できる仲間が結びつき助け合う団体、昔の「講」のようなものの復活が大切なのではないかと話されました。

第二部では東近江流域森林づくり委員会が提案する東近江地域の森林の目指すべき将来像「あかねの森づくり構想」について、委員が座談会形式でご紹介しました。「あかねの森づくり構想」は、各委員と委員会事務局が分担して執筆しています。第4章「森林と人との関わり」では、木材の利用、薬草・薬樹と食材、伝統・文化・伝承、森は遊びの空間、体験学習など、東近江地域の森林と私たち住民のこれからの関わり方のヒントが満載です。委員会では、この「あかねの森づくり構想」を基にしたモデル地域を作ろうと考えています。

第一部では、平成20年度に琵琶湖森林づくり事業の一環で実施した「みんなで始めよう森づくり活動公募事業」採択団体のうち、「NPO法人愛のまちエコ倶楽部」「八幡山の景観を良くする会」「びわ湖プロジェクト」が活動状況を発表しました。どの団体も、身近な森林の現状から課題を見つけ、自分たちにできること、自分たちがやらなければならないことに、楽しみながら取り組んでおられます。東近江地域には、この3団体の他にも多くの森づくり活動団体があります。このような団体こそ、内山先生が講演で話された「講」のようなものなのかもしれません。フォーラム会場の客席の皆さんからも、各団体の活動を応援する声が多く寄せられました。「あかねの森づくり構想」は、4月1日よりHPでもご紹介しています。ぜひご覧ください。



2030年 あなたならどっち?

今から23年後の滋賀県ってどうなっているんでしょう?このまあいったらA?それともB?どちらに進むかは、今の私たちの選択にかかっているのかも?

A	B
同居していた子どもたちも次々といとろに家を建て、 残ったのは老夫婦。	二世帯住宅、三世帯同居だけ...
二階は階段を昇るのバシンドくて殆ど使えない状態に。	玄関2つ、台所2つ。電話も居住空間もばらばら。でも中でちゃんとながらっている。
この家も、和子が死んだらこの家のわな	一方こちらは、同じ敷地内に二世帯。
一方、こちらは、息子夫婦と同居するため大きな家を建てた。	また、スプの冷めぬ距離。
玄関、台所、ひとつの典型的な二世帯住宅	こんなものもありかも。
ところが結局、食べ物に興味や生活スタイルが合わず、息子夫婦は出ていってしまった...	いろいろな大きさの家(家族用・天吊用・車庫用)がまわりにあり、中心に共有スペースがある。世帯は別でも、必ず顔を合わせる場があるから、孤立せず安心。

他人様はいいけど、近所の人と仲良くしたい。近所の人と仲良くしたい。近所の人と仲良くしたい。近所の人と仲良くしたい。近所の人と仲良くしたい。



ぶり縄(なわ)

長いロープの両端にそれぞれ棒が結んであるだけのこの道具、これだけで木に登ることが出来る。



棒をロープで木の幹に結びつけ、ロープの輪っかで足場も一緒に作る。両端に棒があるので上下2段できるが、それ以上登りたいときは下の段を外しながら上の段に登り、外した棒をさらに上に結ぶ。木の幹にハシゴを作っていく様にも見えるが、実際には「枝」を取り付けていく感じだ。取り付けた棒にぶら下がり、ロープの足場を使ってよじ登る感じは子供の頃に挑戦した「木登り」そのものだ。



頭上から無邪気な声が聞こえてくる。

ここまでおいで (コラム担当 ガ)

編集後記

平成21年4月から湖東エリアと東近江エリアを所管する事務所として「中部森林整備事務所」ができます。人も増えますが陣地も広がる...このニュースレターも名称変更か!? 思わぬ最終号...次へ引き継ぎます(山口)